

平成 25 年度 事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

平成 26 年 5 月 28 日
公益財団法人 同盟育成会
山内豊彦

[I] 事業の状況

【学寮事業】

1、同盟学寮

(入寮状況)

(1)平成 25 年度の新入寮生は、男子 12 人、女子 6 人の計 18 人で、期首の寮生総数は男子 39 人(定員 42 人)、女子 22 人(同 22 人)の計 61 人、欠員 3 人(いずれも男子)となった。

(2)平成 26 年度の募集も、前年度同様、25 年 11 月 29 日締め切りの第 1 次募集と 26 年 3 月 7 日締め切りの第 2 次募集の 2 段階方式とし、25 年 6 月に募集要項をホームページにアップした。

第 1 次募集には、男子 15 人、女子 14 人が応募。書類審査、面接を経て 26 年 1 月 29 日に学寮運営委員会を開催し、最終選考した結果、男子 14 人、女子 7 人の合格者と女子 4 人の補欠を決定した。しかし、入試失敗などで、男子 5 人、女子 1 人の辞退があり、1 次募集の合格者は、平成 25 年度末の欠員予定数男子 17 人、女子 8 人に対し、男子 9 人、女子 6 人となった。

引き続き実施した第 2 次募集では、男子 5 人、女子 3 人の応募があった。第 1 次募集同様、書類審査と面接をしたうえで、3 月 26 日に学寮運営委員会を開き、男子全員と女子 1 人、及び第 1 次募集補欠の女子 1 人を合格とした。

この結果、26 年度の新規入寮生は男子 14 人、女子 8 人となった。

男子は 3 人の定員割れとなったが、平成 22 年に寮長執務室を改装して男子定員を 2 人増やした経緯があり、これを元に戻して寮長執務室を復活させることとした。このため、26 年度期首の欠員は 1 人となる。

25 年度期首と 26 年度期首の在寮者数は次の通り(丸カッコ内の数字は女子)。

	平成 25 年 4 月	26 年 4 月
大学 4 年生	15 人(6)	12 人(4)
3 年生	13 人(4)	19 人(8)
2 年生	11 人(5)	12 人(5)
1 年生	12 人(4)	11 人(3)
専門学校	3 人(1)	5 人(2)
大学院生	7 人(2)	2 人(0)
合計	61 人(22)	61 人(22)

(寮生自治)

寮生の自治組織「委員会」のメンバーは例年通り4月と10月に改選され、委員長には前期、後期とも広田綾輔君(帝京大3年生)が選出された。

委員長以下、風紀、経理、文化、施設、パソコン、食糧の各委員および総班長、班長が定期的に、委員会を開催し、学寮運営について討論を重ねた。これには学寮長、副学寮長も参加し、議論を傍聴するとともに、必要に応じて助言した。

(行事)

①対面式

新入寮生と在寮生の対面式が、4月7日に同盟学寮で行われ、山内理事長も出席して訓示した。

②夏季キャンプ

寮生訓育活動の一環として、8月7、8の両日、茨城県・筑波山で恒例の夏季キャンプを実施、寮生39人が参加した。例年通り、寮長、副寮長が同行し、指導・監督に当たった。

③創立記念式と講演会

10月20日に、同盟学寮で、創立記念講演会と記念式を開催した。

現役寮生、寮生OB、財団関係者ら約120人が参加。記念講演会では、2013年度日本記者クラブ賞受賞者の小山鉄郎共同通信社編集委員兼論説委員を講師に招き、「村上春樹の文学、そして漢字と日本人」というテーマで話を聴いた。

④成人式

1月19日に同盟学寮で成人式を開き、山内理事長が出席して、新成人9人に記念品を贈呈した。

⑤その他

寮生の希望者にTOEIC(英語検定試験)やインフルエンザ予防接種を育成会の費用負担で受けさせる事業を例年通り実施、TOEICは2人、予防接種は34人が受けた。

このほか、寮生主催の新人歓迎会(4月20日)、クリスマスパーティー(11月30日)、卒寮生送別会(3月22日)などに補助金を支出した。

2、新学寮建設

(工事請負契約)

東京都文京区白山5丁目の新学寮建設は、9月25日に細部を残して設計作業が終了し、9月27日、設計・施工請負業者の株式会社安藤・間との間で、工事請負契約に調印した。

(近隣説明会)

11月11日と26日の2度にわたって近隣説明会を開催。山内理事長も出席して、当財団の学生支援事業について説明。近隣住民の要望を聴くとともに、理解と協力を求めた。

(地鎮祭)

1月30日に、簸川神社の神官を斎主として、現地で地鎮祭を挙げる。来賓の町内会代表をはじめ、同盟育成会の役職員、寮生代表、工事を担当する安藤・間の関係者ら約40人が参列し、工事の安全と無事竣工を祈願した。

その後、現場では2月中旬から基礎杭の杭打ち工事に入った。

【奨学金事業】

1、古野給与奨学金

(採用と募集)

大学院生を対象とする給与奨学金は、新学寮建設に伴う資金需要増大を考慮して、推薦依頼校を16校に絞るなど、募集を抑制したところ、応募は6大学から男子4、女子3の計7人にとどまった。

このため、追加募集を実施、応募資格も、従来の「ジャーナリズム、マスコミ関係の研究に従事する者」に加えて「ジャーナリストを目指す者」にまで拡大した。その結果、2大学から男女各1人の推薦があり、応募者は7大学9人(うち、留学生は男女各1人の計2人)となった。

推薦された9人は6月5日の奨学生選考委員会の審査を経て、全員採用とした。この結果、同年度の給与奨学生総数は、前年度からの継続分15人と合わせて24人となった。

このうち、24年度採用の男子留学生1人が9月で修了、また、25年度採用の女子が就職に伴って11月で退学したため、それぞれ給与を終了した。

26年度分の募集は、新学寮建設の資金手当てのめどがついたため、募集枠を20人に拡大し、引き続き「ジャーナリストを目指す者」も対象とした。

この方針のもとに、2月に募集要項をホームページにアップするとともに、17大学に対し、推薦依頼書を発送した。

(研修会)

給与奨学生の定期研修会を9月と3月に開催した。

9月12、13の両日、横浜市中区の横浜情報文化センターで開いた1回目の研修会は、セミナー、日本新聞博物館見学、懇親会の3部構成で、奨学生23人が出席し、コーディネーターの桂敬一元東京大学新聞研究所教授を囲んで活発に意見交換した。

12日夜の懇親会には、奨学生選考委員や奨学生OBも参加、給与奨学生と財団との交流を図った。

3月3日の第2回研修会は、24年度採用生の修了祝いを兼ねて東京・内幸町の日本記者クラブで開催、奨学生17人のほか、奨学生OB、奨学生選考委員も参加した。

セミナーと懇親会の2部構成で、セミナーでは、修了生10人があらかじめ提出したレポートをもとに2年間の研究成果を発表し、桂敬一元東大新聞研究所教授の講評を受けた。

2、古野貸与奨学金

(採用状況)

貸与奨学金も、新学寮建設に伴う資金需要増大に対応するため、募集枠を前年度の大学、高校合計20人から、同10人に半減させた。これに対し、男子4人、女子3人の計7人の応募があり、特別な欠格事由が見当たらなかったため、全員採用とした。

この結果、25年度期首の貸与奨学生総数は大学生(大学院、短大を含む)67人(うち休学による貸与停止者1人)、高校生1人となり、このうち大学生20人、高校生1人が卒業に伴い25年度末で貸与を終了した。

25年度の貸与金総額は新規・継続合わせて2,394万円。同年度中の返還金総額は2,136万5,534円。同年度末の貸与残高は前年同期比で257万4,466円増の1億7,116万4,532円となった。

26年度の新規採用については、2月に募集要項をホームページにアップし、26年5月9日締め切りで募集している。

貸与奨学金は日本学生支援機構のシェアが大きく、民間の奨学金は存在理由が薄れていると判断されるため、募集定員は圧縮基調を維持し、前年度と同数の10人を継続することとした。

【収益事業】

引き続き、東京・渋谷の旧学寮跡地と同・白山の新学寮建設用地を、時間貸し駐車場を運営する日本パーキングに貸与し、収益を上げた。

このうち、白山の土地については、新学寮着工に備え、平成25年10月16日で契約を打ち切った。

賃貸料収入は渋谷が月額300万円(平成26年3月から30万円値下げして270万円)、白山は同54万円で、両方を合わせた平成25年度の年間収入額は3,867万8,710円。

〔Ⅱ〕資産の状況

1、基本財産の現況

基本財産として保有している株式が14億5,579万5,360円の評価益を生んだ。一方、建物(同盟学寮)の減価償却1,057万6,621円がマイナスとなり、これらを差し引きした基本財産の合計額は、前年度比14億4,521万8,739円増の、66億1,756万9,151円となった。

基本財産の内訳は、土地14億9,610万7,102円、建物4億0,958万8,629円、投資有価証券47億1,187万3,420円となる。

2、運用財産の現況

(1) 特定資産

投資有価証券の運用により生じた売却損益と評価損益を合算した特定資産の評価損益は、1億5,141万8,530円のマイナスとなった。

また、将来の学寮建て替えに備えて、資産取得資金として学生寮減価償却引当資産を新設、平成25年度分として、同年度の市谷寮減価償却額1,057万6,621円を積み立てた。

一方、白山寮建設に伴う支払いに充てるため、新学寮建設積立金から6,000万円を取り崩した。

これらの結果、特定資産の合計額は前年度比1億9,859万7,208円減の37億0,974万1,898円となった。

特定資産の内訳は学生育成基金15億5,296万2,755円、管理活動基金13億7,660万9,286円、新学寮建設積立金5億4,623万3,670円、奨学金貸与残1億7,116万4,532円、学生寮維持・改良基金3,729万8,034円、学生寮減価償却引当資産1,057万6,621円、役員退職慰労引当資産663万9,000円、職員退職給付引当資産825万8,000円となっている。

(2) その他固定資産

その他固定資産は、新学寮建設のための建設仮勘定を新設、白山寮建設関係の当年度分の支出1億9,642万4,836円を計上した。

この他は、建物、構築物、什器備品の減価償却以外に大きな変動はなく、総額は前年度比1億9,048万0,908円増の2億9,658万1,633円となった。

その他固定資産の内訳は、建物851万6,585円、構築物712万9,983円、什器備品112万1,064円、土地8,182万5,865円、建設仮勘定1億9,642万4,836円、事務所敷金156万3,300円。

(3) 流動資産

流動資産は、現預金7,425万4,437円のほか、寮費の未収金42万円、仮払金2万2,788円があり、合計額は前年度より1,212万4,238円増加して7,469万7,225円となった。

3、正味財産の現況

資産の合計額は前年度比14億4,922万6,677円増の106億9,858万9,907円。これに対し、負債が職員退職給付引当金など1,525万0,148円あり、これを差し引いた正味財産の総額は前年度比14億4,847万7,585円増の106億8,333万9,759円となる。

[Ⅲ]損益の状況

1、収益

保有する株式(電通、パナソニック、太平印刷)の配当金収入は合計3,676万6,000円(予算比109.2%)で、期首の時価評価額に対する配当利回りは1.1%となった。また、特定資産の利息収入は1億9,704万9,143円(同115.9%)で期首の時価評価額に対する利回りは5.0%だった。

また、渋谷の学寮跡地と白山の新学寮用地を引き続き収益事業として日本パーキング(株)に賃貸し(白山は10月16日で打ち切り)、合計で3,867万8,710円(同98.6%)の収益を上げた。

このほか、寮費収入が2,087万4,000円(同90.6%)あり、これらに雑収益を加えた経常収益の合計は2億9,377万2,268円(同110.4%)となった。

2、費用

経常費用は事業費、管理費の合計で1億4,472万8,334円(予算比96.2%)。

主な事業費は給与奨学金1,395万円(同78.8%)、学寮の給食補助費2,122万0,961円(同95.5%)、学寮の減価償却費(什器備品を含む)1,082万8,885円(同99.5%)、光熱水料費1,047万6,038円(同110.3%)など。

また、主な管理費としては役員報酬1,436万円(同101.3%)、給料手当1,283万3,135円(同100.4%)、賃借料1,056万3,826円、租税公課1,147万0,800円(同81.1%)などがある。

このほか、予算を大きく上回ったものとしては、事業費の報奨金108,000円(同540.0%)、同租税公課264万5,900円(同882.0%)、管理費の消耗什器備品費23万0,681円(230.7%)がある。

このうち、報奨金は貸与奨学金の一括返還が5件出たことによるもの。租税公課は、白山寮着工に伴って、白山の土地が年度途中で収益事業会計から公益目的事業会計に移ったことに伴うもので、その分、管理会計の租税公課が減少している。

また、管理会計の消耗什器備品費増加は事務所移転が主な要因である。

3、経常増減

以上の結果、評価損益等調整前の経常増減額は1億4,904万3,934円の増(予算比128.9%)となった。

加えて、株式市場の好転により、保有する電通株とパナソニック株の評価額が14億5,579万5,360円上昇。一方で、特定資産の評価損が1億5,141万8,530円出たが、これを差し引いても13億0,437万6,830円の評価益が出た。これを含めた当期経常増減額は14億5,342万0,764円の増となる。

4、経常外増減

経常外では、旧虎ノ門事務所の構築物除却損494万3,179円を経常外費用として計上した。

5、正味財産増減

以上の結果、当期一般正味財産増減額は14億4,847万7,585円の増額となり、期首残高にこれを加えた一般正味財産期末残高は106億8,333万9,759円となる。

[IV]管理部門の状況

1、事務所移転と定款変更

当財団が主たる事務所を置いていた東京都港区虎ノ門1丁目5番16号の晩翠ビルは耐震性に不安があったため、かねて移転先を探していたところ、千代田区内幸町2-2-1の日本プレスセンタービル1階に適当な物件が見つかり、11月5日付で主たる事務所を同ビルに移転した。

また、そのために、7月に、書面で評議員全員の賛成と監事全員の同意を得て、定款第2条と附則を変更した。

2、諸規程の整備

引き続き諸規程の整備を進めた。制定、改正した主な規程等は以下の通り

「学生寮維持・改良基金規程」改正(平成26年1月の理事会)

「嘱託就業規則」改正(同3月の理事会)

「学寮修繕積立金規程」制定(同3月の理事会)

「学寮減価償却引当資産規程」制定(同3月の理事会)

3、役員等の異動に関する事項

(1) 評議員改選

平成25年2月に全評議員から辞表が提出されたのを受けて、4月17日に評議員選定委員会を開催、山内理事長が、3月の理事会で決定した次期評議員候補者21人を推薦し、委員会は候補者全員を次期評議員として選任した。

6月14日の定時評議員会終了をもって、前期評議員は退任、新メンバーが就任した。

(2) 理事・監事の改選

6月14日の定時評議員会で任期満了に伴う理事、監事の改選が行われ、14人の理事(再任12人、新任2人)と2人の監事(再任1人、新任1人)が選任された。

また、直後に開かれた新メンバーによる理事会で、代表理事・理事長に山内豊彦氏、同常務理事に井口智彦氏が再任された。山内氏は、平成26年3月1日から非常勤となった。

4、職員等の異動に関する事項

平成22年7月から事務局で経理等の仕事をしてきた派遣社員佐倉理恵さんの派遣期間が満了したため、7月13日から直接雇用のアルバイトとして採用した。

平成16年9月から、同盟学寮副寮長として勤務していた非常勤嘱託の久慈美奈子さんが契約満了に伴って3月31日付で退職した。

5、会議に関する事項

1) 評議員選定委員会

開催年月日	会議事項	会議の結果
平成25年 4月17日	全評議員の辞表提出に伴う、新評議員の選任	理事長から提出された候補者21人全員を選任

2) 理事会

開催年月日	会議事項	会議の結果
(第1回) 平成25年 5月29日	(1)平成24年度事業報告書・同決算書の件 (2)次期役員候補者選定の件 (3)退任役員への退職慰労金贈呈の件 (4)平成25年度第1回評議員会招集の件 (5)次期評議員決定の報告 (6)代表理事の職務執行状況報告	原案通り可決 理事14人監事2人の推薦候補者を決定 原案通り可決 原案通り可決 報告を聴取 報告を聴取
(第2回) 平成25年 6月14日	(1)理事長、常務理事選任の件 (2)平成25年度古野奨学生採用状況報告	山内豊彦理事長と井口智彦常務理事を再任 報告を聴取
(第3回) 平成25年 7月10日	(1)財団事務所移転とこれに伴う定款変更、評議員会招集の件 (2)代表理事職務執行状況報告	原案通り可決 報告を聴取
(第4回) 平成25年 10月23日	(1)平成25年度補正予算の件 (2)事務所移転日の件 (3)平成25年度上期事業報告と同決算報告の件 (4)代表理事職務執行状況報告	原案通り可決 原案通り可決 報告を聴取 報告を聴取
(第5回) 平成26年 1月21日	(1)学生寮維持・改良基金規程改正と同基金取り崩しの件 (2)平成25年度第4回評議員会招集の件 (3)平成26年度事業計画策定と同予算編成の基本方針 (4)代表理事職務執行状況報告	原案通り可決 原案通り可決 報告を聴取 報告を聴取
(第6回) 平成26年 3月10日	(1)嘱託就業規則改正の件 (2)学寮修繕積立金創設の件 (3)学寮減価償却引当資産規程の件 (4)平成26年度事業計画書、同予算書の件 (5)理事個別報酬決定の件 (6)代表理事職務執行状況報告	原案通り可決 原案通り可決 原案通り可決 原案通り可決 原案通り可決 報告を聴取

2) 評議員会

開催年月日	会議事項	会議の結果
(第1回) 平成25年 6月14日	(1)平成24年度事業報告書と同決算書の件 (2)次期理事、監事選任の件 (3)退任理事、監事に対する退職慰労金贈呈の件	事業報告を聴取 決算書を原案通り承認 理事14人、監事2人を選任 原案通り承認
(第2回書面) 平成25年 7月29日	主たる事務所移転に伴う定款の変更	評議員21人全員の賛成 と監事2人全員の同意 により原案通り承認
(第3回) 平成25年 10月23日	(1)平成25年度補正予算の報告 (2)事務所移転の日の報告 (3)平成25年度上期事業報告、同決算報告	報告を聴取 報告を聴取 報告を聴取
(第4回) 平成26年 3月10日	平成26年度事業計画書、同予算書の報告	報告を聴取

6、許・認可、承認に関する事項

なし

7、登記に関する事項

- 1) 評議員、理事、監事の変更登記(6月21日、東京法務局)
- 2) 主たる事務所移転登記(11月5日、東京法務局)
- 3) 登記名義人住所変更登記＝市谷寮土地、建物(11月14日、東京法務局)
- 4) 同＝白山土地(11月14日、東京法務局)
- 5) 同＝渋谷土地(11月14日、東京法務局)
- 6) 同＝茅野市マンションビラ蓼科(11月18日、長野地方法務局)

8、報告等に関する事項

- 1) 6月25日、内閣府に平成24年度事業報告等を提出
- 2) 7月2日、内閣府に評議員、理事、監事の変更届出書を提出
- 3) 7月3日、内閣府に評議員、理事、監事の変更届出書の修正書を提出
- 4) 11月11日、内閣府に主たる事務所所在地の変更届け出書を提出
- 5) 1月28日、内閣府に平成24年度事業報告等の修正書を提出
- 6) 3月13日、内閣府に平成26年度事業計画書等を提出

[V]保有株式に関する報告

その株式の 20%以上を保有している企業について、概要を報告する。

企業名 株式会社太平印刷社(非上場 80 万株・本社東京都品川区東品川 1—6—16)

- 1) 資本金／事業内容 4,000 万円／印刷業・従業員数 70 人
- 2) 代表者／役員数 沖田啓了 代表取締役社長／6 人
- 3) 保有株数／比率 20 万株・額面 50 円／25%
- 4) 保有の理由・日時 当財団発足時の母体であった(社)同盟通信社が解散した際、その印刷部門が独立創業した会社で、昭和 49 年増資時に一部資金を当財団から貸与した見返りとして贈与された。
- 5) 当財団との関係 同社の石井和行会長が当財団理事を兼任している。
- 6) 処分の見通し 同社には買い戻す資金的余裕がなく、適当な売却先も見つからないため、処分は困難である。

[VI]附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書は作成しない。

以上

評議員名簿

(平成26年3月31日現在)

定款の定数 15～25人(全員非常勤)

平成25年4月17日評議員選定委員会選任

氏名	肩書
藤田 博司	元上智大学教授
榊原 潤	元(株)時事通信社代表取締役社長
根本 紀彦	元(株)共同通信会館専務取締役
若林 清造	元(株)時事通信社代表取締役社長
中澤 孝之	日本対外文化協会理事、元新潟女子短大教授
金子 敦郎	大阪国際大学名誉教授
佐々木 坦	元(社)共同通信社常務理事、元東京外国語大学臨時講師
清水 修	元(株)東印取締役
長谷川 隆	日本トイザラス(株)監査役
長宗我部友親	(株)企画の庭代表取締役
金重 紘	元東洋英和女学院大講師、元(株)時事通信社監査役
国分 俊英	(株)共同通信会館顧問、福島県郡山市フロンティア大使
中田 正博	元(株)時事通信社代表取締役社長
福山 正喜	(一社)共同通信社社長
中山 恒彦	時事総合研究所客員研究員
栗原 猛	埼玉新聞特別編集委員
井内 康文	(株)西松建設顧問
近藤 公貢	(株)時事通信社社友会事務局長
岸田 郁弘	元(株)時事通信社常務取締役
海津 正則	(株)メディア・ゲイン顧問
信太 謙三	東洋大学社会学部教授

同盟育成会理事、監事名簿

(平成26年3月31日現在)

定数 理事=8~14名 監事=2名以内

理 事

氏 名	常 勤 非常勤	勤 務 先 及 び 役 職 名
山内 豊彦	非	(一社)共同通信社顧問
長谷川 和明	非	(公財)新聞通信調査会理事長
井口 智彦	常	(公財)同盟育成会事務局長
門田 衛士	非	元(社)共同通信社専務理事
菱木 一美	非	広島修道大学名誉教授
佐藤 睦	非	(株)時事総合研究所客員研究員
鈴木 元	非	(公財)新聞通信調査会常務理事
田中 吉男	非	元(株)時事通信社監査役
江口 伸幸	非	元(株)時事通信社常務取締役
山田 計一	非	元(社)共同通信社専務理事
石川 聰	非	(一社)共同通信社相談役
中村 輝子	非	東京都情報公開・個人情報保護審議会委員
石井 和行	非	元(株)太平印刷社社長
西澤 豊	非	(株)時事通信社社長

注:名簿の並びは就任歴順

監 事

氏 名	常 勤 非常勤	勤 務 先 及 び 役 職 名
櫻井 郁生	非	元日本メディアーク(株)代表取締役
小寺 壽成	非	税理士・東京地方税理士会税法研究所研究員

注:名簿の並びは就任歴順

25年度事業報告書別紙3

職員名簿

(26年3月31日現在)

役職名	(フリガナ) 氏名	常勤・非常勤の別
事務局長	井口 智彦 イグチ トモヒコ	常
主任	佐々木 秀子 ササキ ヒデコ	常
事務局員	佐倉 理恵 サクラ リエ	非
同盟学寮学寮長	久慈 良政 クジ ヨシマサ	常
同盟学寮副学寮長	久慈 美奈子 クジ ミナコ	非